

第117回 地区内中小企業景気動向調査結果

(平成30年1～3月期実績・平成30年4～6月期見通し)

1. 調査時点 平成30年3月1日～3月7日
2. 調査対象企業数 173社中回答 173社 回答率 100.0%

区分	調査対象企業の範囲	調査対象企業数	有効回答数	有効回答率(%)
製造業	従業員 300人以下	37	37	100.0
建設業	〃	43	43	100.0
卸売業	従業員 100人以下	7	7	100.0
小売業	従業員 50人以下	56	56	100.0
サービス業	〃	30	30	100.0
合計		173	173	100.0

3. 調査方法

当金庫調査員の面接聞き取りによる感触調査です。

調査対象企業は、当金庫の営業区域（新冠町～広尾町）内に所在する企業とし、その抽出は、各業種・規模等の基本属性の構成が、調査対象母集団の属性に見合う一定基準に基づいて有意抽出で行っています。

4. 分析方法

各質問項目で「増加（上昇）」したと回答した企業の全体に占める構成比と、「減少（下降）」したと回答した企業の全体に占める構成比との差（判断指数・DI値）を中心にして分析を行っています。

なお、同時に信金中央金庫 地域・中小企業研究所が行う、全国調査結果と地区内との比較分析を行っています。

5. お問い合わせ先

日高信用金庫 業務部地域貢献課（TEL. 0146-22-4100、内線 611）
〒057-0013 浦河郡浦河町大通 2 丁目 31 番地 2

全業種総合 173 企業 (回答率 100.0%) の調査結果です

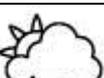
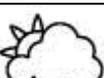
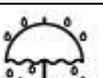
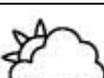
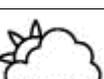
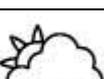
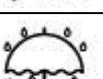
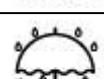
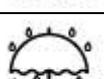
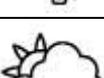
□ 概 況

今期（平成30年1～3月期）の業況判断D.I.は△30.6と、前期（平成29年10～12月期）比13.9ポイントの悪化となった。また、前年（△33.5）比では2.9ポイントの改善となった。前期（平成29年10～12月期）調査時点での今期（平成30年1～3月期）見通し（△31.8）を1.2ポイント下回る水準となった。業種別には、製造業△32.4（前期△29.7）、建設業△27.9（同△2.4）、卸売業△42.8（同0.0）、小売業△32.1（同△17.9）、サービス業△26.7（同△23.3）となった。

売上額判断D.I.は△35.9と前期（△6.9）比29.0ポイント下降、収益判断D.I.は△37.6と前期（△11.0）比26.6ポイント下降した。

来期（平成30年4～6月期）の予想業況判断D.I.は△12.1と、今期実績比18.5ポイントの上昇見通しとなった。業種別にみると、製造業△16.2、建設業4.6、卸売業△14.3、小売業△28.6、サービス業△0.1と来期を見通している。

【業種別天気図】

時期 業種	地 区 内				北 海 道	全 国
	29年 7月～9月	29年 10月～12月	30年 1月～3月	30年 4月～6月 見通し	当 期	当 期
総 合						
製 造 業						
建 設 業						
卸 売 業						
小 売 業						
サ ー ビ ス 業						

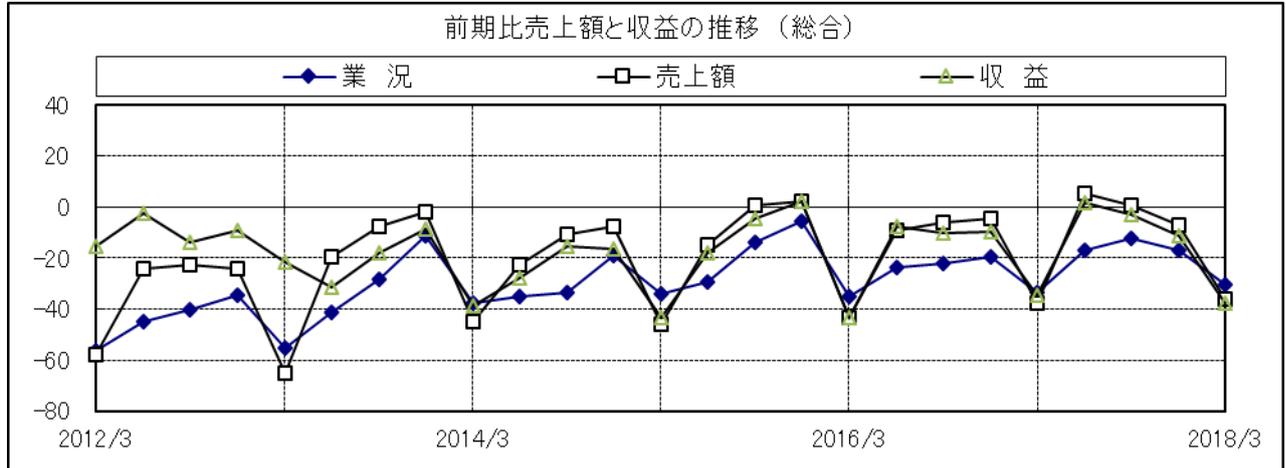
好調 ←        → 低調

この天気図は、景気指標を総合判断して作成したものです。

□ 景 況

DI 値 の推移	7~9月 期実績	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期見通し
業 況	-12.2	-16.7	-30.6	-12.1
売上額	0.6	-6.9	-35.9	7.4
収 益	-3.0	-11.0	-37.6	3.5

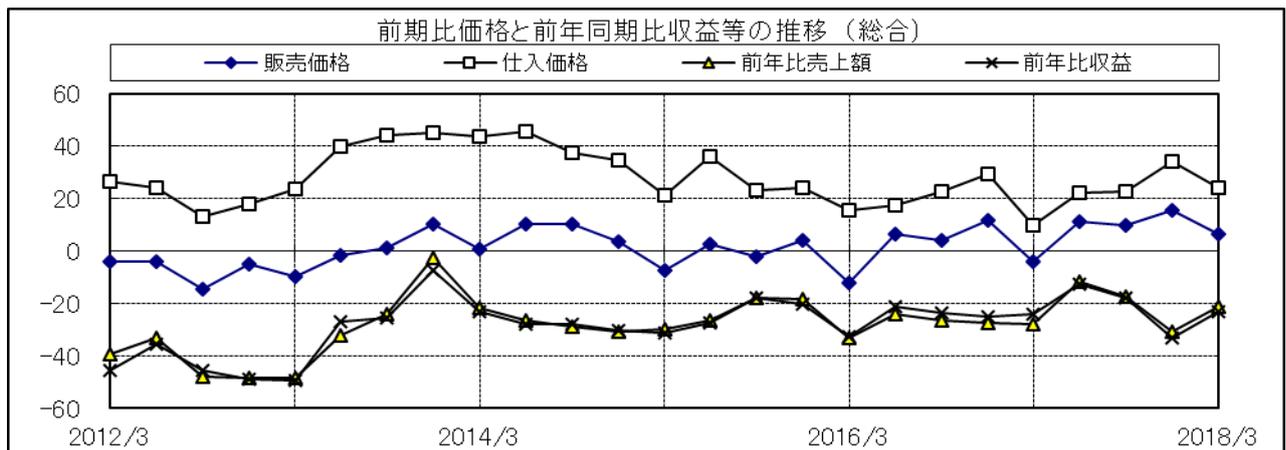
全業種総合の今期の業況判断D. I. は $\Delta 30.6$ で、前期比13.9ポイント下降した。地区別のD. I. は、高い順に、静内、浦河・えりも(同率)、広尾、三石、様似となった。前年($\Delta 33.5$)比では2.9ポイント上昇した。売上額判断D. I. は $\Delta 35.9$ で前期比29.0ポイント下降、収益判断D. I. は $\Delta 37.6$ で前期比26.6ポイント下降した。



□ 価格面、前年同期に比した動き

DI 値 の推移	7~9月 期実績	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期見通し
販売価格	9.9	15.6	6.4	2.8
仕入価格	22.5	34.1	24.3	18.0

販売価格判断D. I. は6.4で、前期比9.2ポイント下降、前年($\Delta 4.0$)比では10.4ポイント上昇した。仕入価格判断D. I. は24.3で、前期比9.8ポイント下降、前年(9.8)比で14.5ポイント上昇した。販売価格を業種別にみると小売業が上昇し、他全業種が下降した。仕入価格では、小売業が上昇し、他全業種が下降した。



□ 雇用面の動き

DI 値 の推移	7~9月 期実績	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期見通し
残業時間	0.1	0.0	-11.5	-2.3
人手状況	-19.1	-21.4	-14.4	-15.6

残業時間判断D. I. は $\Delta 11.5$ と、前期比11.5ポイント下降し、残業時間が減少したとする企業割合が増加した。

人手過不足判断D. I. は $\Delta 14.4$ と、前期比7.0ポイント上昇し、人手不足感が弱まった。

□ 設備投資の動き

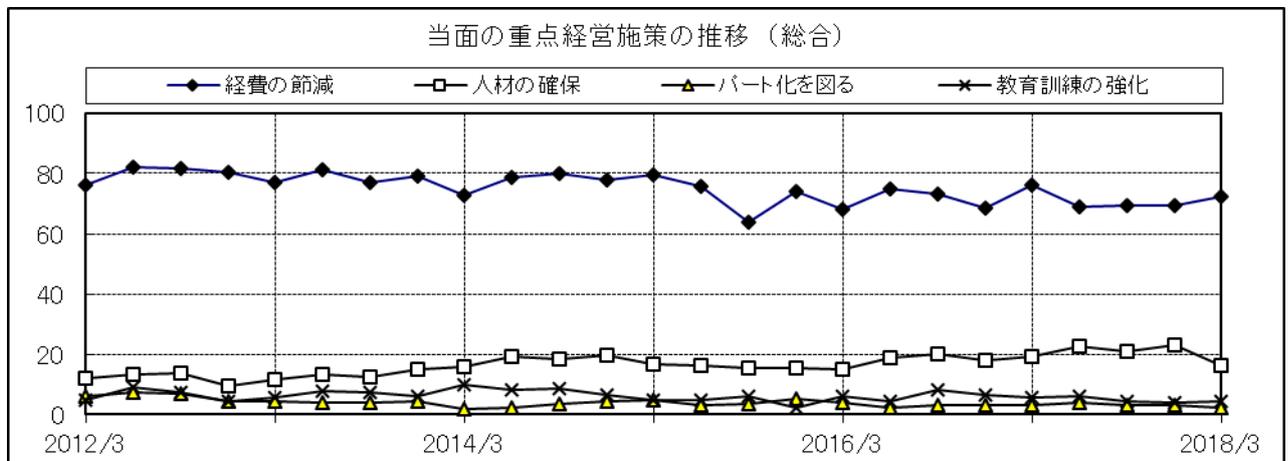
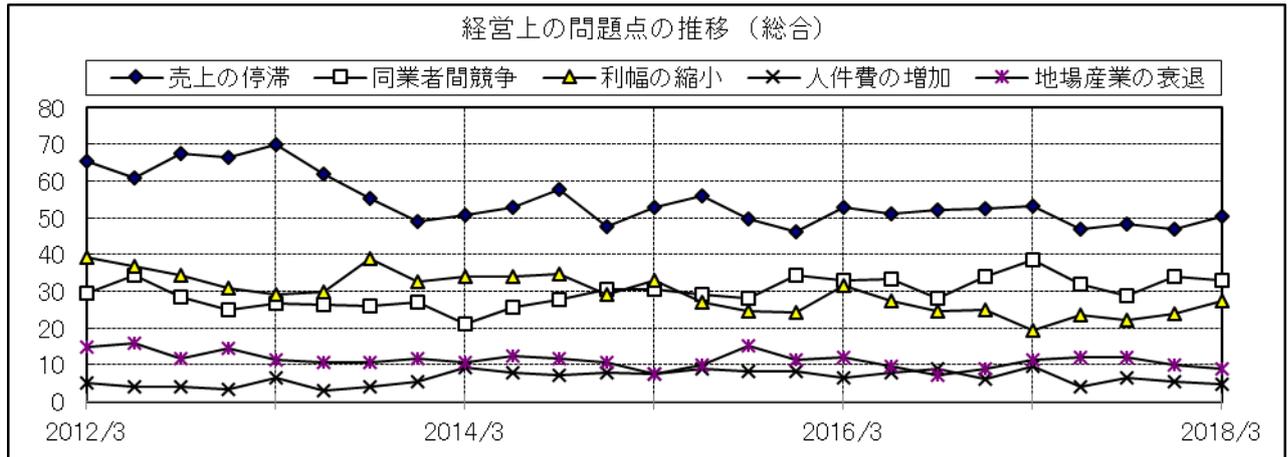
設備投資の充足感を示すD.I.は $\Delta 9.2$ で、前期($\Delta 8.0$)比1.2ポイント下降した。

設備投資実施企業割合は8.1%で、前期(11.0)比2.9ポイント下降した。設備投資は、前期19社に対し、14社の実施となった。来期の設備投資は、12社の予定となっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上停滞減少」が50.3%で最も多く、次に「同業者との競合」32.9%、「利幅縮小」27.5%、「人手不足」15.0%、「地場産業衰退」9.0%、「天候不順」6.6%、「人件費増加」4.8%、と続いた。

重点経営施策では、「経費節減」が72.5%で最も多く、次に「人材確保」16.3%、「教育訓練強化」が4.4%、「パート化を図る」・「不動産有効活用」が同率の2.5%となっている。



□ 来期の見通し

来期の予想業況判断D.I.は $\Delta 12.1$ と、今期比18.5ポイントの上昇を見通している。

予想売上額判断D.I.は7.4と、今期比43.3ポイントの上昇を見通している。

予想収益判断D.I.は3.5と、今期比41.1ポイントの上昇を見通している。

予想販売価格判断D.I.は2.8と、今期比3.6ポイントの下降を見通している。

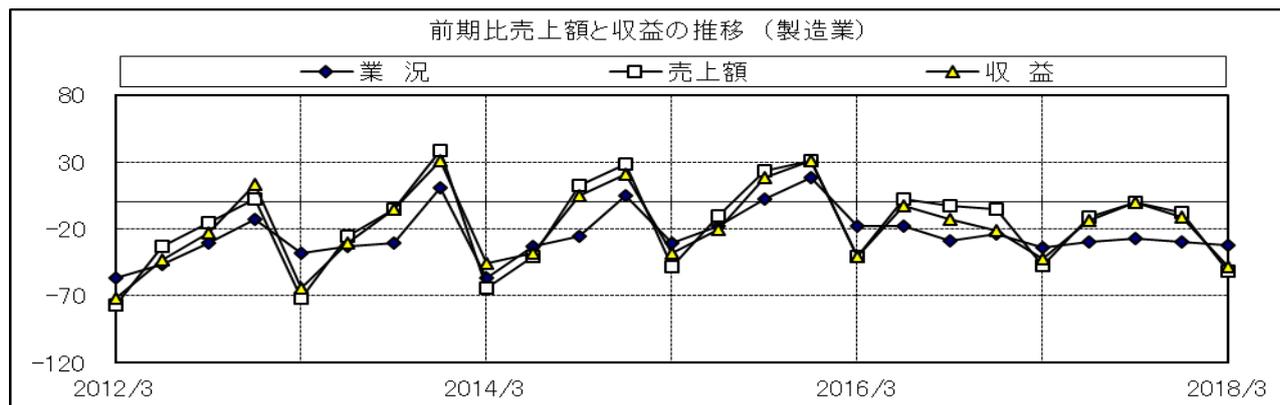
予想仕入価格判断D.I.は18.0と、今期比6.3ポイントの下降を見通している。

製造業 37企業 (回答率 100.0%) の調査結果です

□ 景 況

DI 値 の推移	7~9月 期実績	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期見通し
業 況	-27.0	-29.7	-32.4	-16.2
売上額	0.0	-8.1	-51.4	5.4
収 益	0.0	-10.8	-48.6	0.0

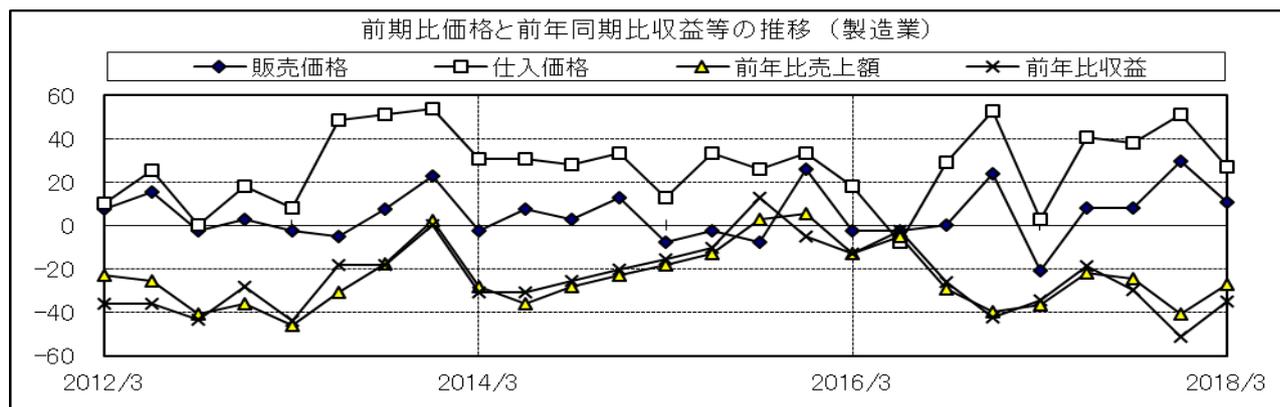
今期の業況判断 D. I. は $\Delta 32.4$ で前期比 2.7 ポイント下降した。地区別の D. I. は、高い順に、浦河が最も高く、様似、えりも、三石・広尾（同率）と続き、静内が最も低い水準となった。前年 ($\Delta 34.1$) 比で 1.7 ポイント上昇した。売上額判断 D. I. は $\Delta 51.4$ で前期比 43.3 ポイント下降、収益判断 D. I. は $\Delta 48.6$ で前期比 37.8 ポイント下降した。



□ 価格面の動き・前年同期に比した動き

DI 値 の推移	7~9月 期実績	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期見通し
販売価格	8.1	29.7	10.8	-5.4
仕入価格	37.8	51.3	27.0	24.3

販売価格判断 D. I. は 10.8 で、前期比 18.9 ポイント下降、前年 ($\Delta 21.0$) 比で 31.8 ポイントの上昇となった。仕入価格判断 D. I. は 27.0 で、前期比 24.3 ポイント下降、前年 (2.7) 比では 24.3 ポイントの上昇となった。



□ 雇用面の動き

DI 値 の推移	7~9月 期実績	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期見通し
残業時間	10.8	0.0	-21.6	0.0
人手状況	-10.8	-21.6	-10.8	-21.6

残業時間判断 D. I. は $\Delta 21.6$ で、前期比 21.6 ポイント下降、残業時間が減少したとする企業割合が増加した。人手過不足判断 D. I. は $\Delta 10.8$ で前期比 10.8 ポイント上昇し、人手不足感が弱まった。

□ 設備投資の動き

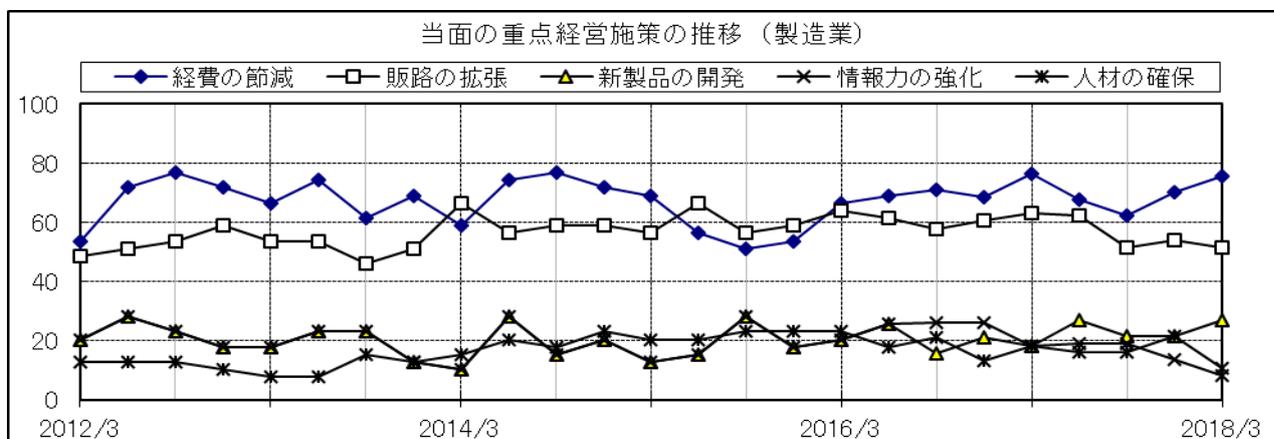
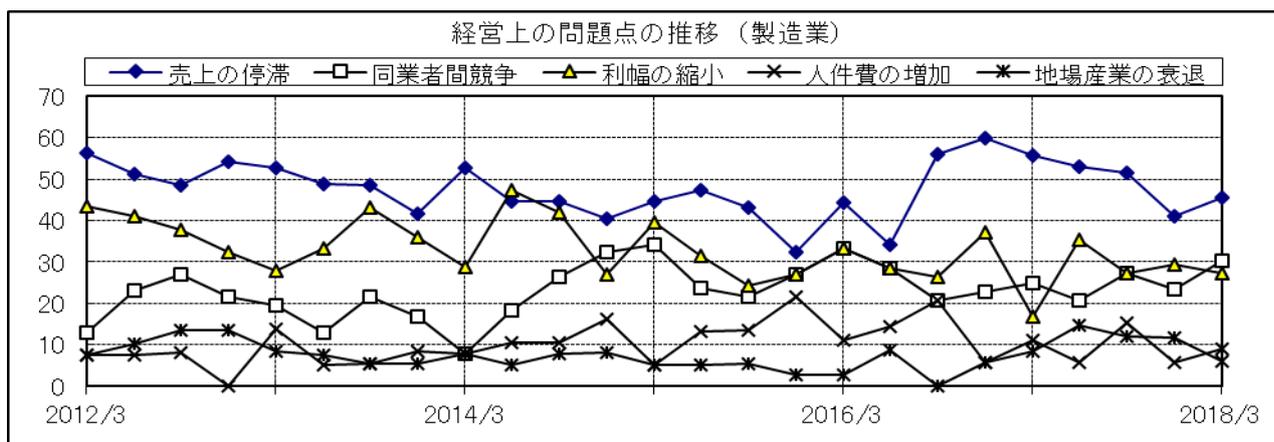
設備投資の充足感を示すD. I. は△13.5で、前期（△10.8）比2.7ポイント下降した。

設備投資実施企業割合は10.8で、前期（16.2）比5.4ポイント下降した。設備投資は、前期6社に対し、4社の実施となった。来期の設備投資は、5社の予定となっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「原材料高」が48.5%と最も多く、「売上停滞減少」45.5%、「同業者との競合」30.3%、「利幅縮小」27.3%、「人手不足」21.2%、「値上げ要請」・「人件費の増加」・「生産能力不足」・「天候不順」が同率の9.1%と続いた。

重点経営施策では、「経費節減」が75.7%と最も多く、「販路拡大」51.4%、「新製品開発」27.0%、「不採算部門縮小」13.5%、「人材確保」10.8%と続いた。



□ 来期の見通し

来期の予想業況判断D. I. は△16.2と、今期比16.2ポイントの上昇を見通している。

予想売上額判断D. I. は5.4と、今期比56.8ポイントの上昇を見通している。

予想収益判断D. I. は0.0と、今期比48.6ポイントの上昇を見通している。

予想販売価格判断D. I. は△5.4と、今期比16.2ポイントの下降を見通している。

予想仕入価格判断D. I. は24.3と、今期比2.7ポイントの下降を見通している。